マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第3部 組み立てる

U06　材料を集める

材料を集める（要素表・優先順位・入れてはいけない要素）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「支えることの往復」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　材料を集めるのルール

R06-1　根拠に線と番号
解答の根拠となる本文に線を引き、番号をふって可視化する。頭の中だけで要素をそろえない。

R06-2　要素表（要素・中身・根拠・採否）
根拠欄に段落番号が入らない要素は不採用。中身は本文の言葉を基本にし、比喩・指示語・具体例だけを言いかえる。

R06-3　短く分けて集め、つなぐ
長い記述ほど、要素を短い単位で集めてから、因果・対比の順につなぐ。

R06-4　加点方式＝根拠のある要素は多めに
要素ごとに配点されるので、どれに配点があるかわからない以上、字数の許す範囲で多めに入れる。ただし「多め」は、根拠のある要素の中での話である。

R06-5　不採用の4類型
①根拠なし ②本文と矛盾（譲歩・反論の側を筆者の主張と取りちがえるなど）③設問とずれる（――線部の言いかえにならない・問いの核に答えない）④具体例のまま。①②は減点の対象になりうる。

R06-6　優先順位と要素数の見積もり
中心（問いの核に直接答える）＞支え（中心を成り立たせる・対比の相手）＞背景（時代・一般論）。目安は1要素20～30字＝八十字で3つ前後、百二十字で4～5つ。字数が足りなければ背景から外す。

R06-7　重なる要素は1つにまとめる
同じ内容が別の言葉でくり返されていたら（③の前半と後半など）、1つの要素として数える。2回書いて字数を使わず、空いた字数を別の要素にまわす。

ルールの番号（R06-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「支えることの往復」

① 介護や看護、あるいは子育てのように、だれかを支えるいとなみは、ふつう一方向のものとして考えられている。力のある者が、力の弱い者に手をさしのべる。支える者はあたえ、支えられる者は受けとる。

② しかし、長く介護にたずさわってきた人の話を聞くと、少しちがう景色が見えてくる。ある人は、ことばを失いかけた母親の世話をつづけるなかで、母がふとした瞬間に見せる笑顔に、何度も自分のほうが救われたと語る。

③ 支える者は、相手の役に立とうとして近づく。ところが、相手の前にとどまりつづけるうちに、相手のわずかな表情の変化に気づき、それに応えようとするようになる。そのとき支える者は、自分が何をすべきかを、相手から教えられている。支えるという行為の中身を決めているのは、じつは支えられる側なのである。

④ さらに、支える者は、相手から必要とされることで、自分がここにいてよいという感覚を受けとっている。役に立つことばかりを求められる社会で疲れはてた人が、介護の現場でかえって自分をとりもどすことがあるのは、そのためだろう。

⑤ こうして見ると、支える者は、支えられてもいる。支えるいとなみは、一方が他方に何かを手わたすだけのものではなく、二人のあいだを行き来する往復なのである。

⑥ もちろん、介護の負担が支える者を追いつめることがあるのも事実だ。往復があるからといって、その負担を個人に背負わせてよいことにはならない。だが、支えることを一方向の「奉仕」としてだけとらえると、支える者が受けとっているものは見えなくなり、支える者自身も、それに気づけなくなる。

⑦ 支えるとは、相手を弱い者として固定することではない。相手から受けとりながら、ともにいることである。

問　――線部「支える者は、支えられてもいる」とあるが、どういうことか。百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　根拠に線と番号**
   ③段落：相手の表情の変化に応えるうちに、何をすべきかを相手から教えられている。④段落：必要とされることで、ここにいてよいという感覚を受けとっている。⑤段落：一方向ではなく往復（R06-1）。
2. **手順2　重なりをまとめる**
   ③段落の「何をすべきかを相手から教えられている」と「行為の中身を決めているのは支えられる側」は同じ内容＝1つの要素（R06-7）。①段落の「一方向」と⑤段落の「往復」も、対比の1要素にまとめる。

3. **手順3　不採用を決める**

②段落の母の笑顔は具体例。④段落後半の「社会で疲れはてた人」は背景。⑥段落の介護の負担は譲歩で、――線部の言いかえではない（設問とずれる）。「感謝されてうれしい」は本文に無い（根拠なし）。「負担はない」は⑥段落と矛盾（R06-5）。

4. **手順4　優先順位と字数**

中心＝③（教えられる）と④（いてよいという感覚）。支え＝一方向ではない（対比）。百字なら3要素。背景・譲歩は入れない（R06-6）。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
中心1	相手の表情の変化に応えるなかで、何をすべきかを相手から教えられている	③	◎ 入れる
中心2	相手に必要とされることで、ここにいてよいという感覚を受けとっている	④	◎ 入れる
支え（対比）	支えることは一方向（あたえるだけ）ではなく往復	①⑤	○ 入れる
具体例・背景	母の笑顔に救われた／社会で疲れはてた人	②④	△ 入れない
設問とずれる	介護の負担が支える者を追いつめることもある（譲歩）	⑥	× 入れない
根拠なし・矛盾	感謝されてうれしい／介護に負担はない	なし・⑥と矛盾	× 入れない

模範解答

模範解答（百字以内）　94字／100字以内

支えることは一方向の行為ではなく、支える者は相手の表情の変化に応えるなかで何をすべきかを相手から教えられ、相手に必要とされることで自分がここにいてよいという感覚を受けとっているということ。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
中心1：何をすべきかを相手から教えられている	4点
中心2：必要とされることで、ここにいてよいという感覚を受けとっている	3点
支え：一方向ではない（往復）	2点
文末「～ということ。」・具体例なし	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「介護をする人は、相手の笑顔に救われるということ。」	具体例のまま。0点。
「支える者も感謝されてうれしいということ。」	本文に根拠が無い。0点。
「支える側の負担は小さいということ。」	⑥段落と矛盾。0点。減点されることもある。
③の同じ内容を2回書いて④が無い	重なりで字数を使い、中心2の3点を落とす。

練習1　評論「時計の時間」

① かつて人びとの暮らしの時間は、それぞれの仕事や季節と結びついていた。田植えは、水がぬるみ、苗が育つころに始まった。漁に出るのは、潮が満ちてくるときだった。時間は、日の長さや空の色、自分のからだの疲れぐあいとともに感じとられるものであり、同じ一時間でも、田植えの朝と冬の夜とでは、まるで違う長さをもっていた。

② 時計は、この時間を、同じ長さの目盛りに刻んだ。一時間は、だれにとっても、いつでも、どこでも同じ一時間である。時計の針は、だれが見ても同じ位置を指している。時計の時間は、季節にも仕事にも、からだの調子にも左右されない。

③ 近代の工場や鉄道は、この時計の時間なしには成り立たなかった。何百人もの人が同じ時刻に働きはじめ、列車が分きざみで走るためには、だれにとっても同じ時間が必要だったのである。

④ こうして時計は、時間を、だれのものでもないものにした。時間は、一人ひとりの暮らしやからだから切りはなされ、外側に置かれた共通のものさしになったのである。

⑤ その結果、私たちは、自分のからだのリズムよりも、時計の針に合わせて動くようになった。おなかがすいたから食べるのではなく、昼の十二時だから食べる。眠いから眠るのではなく、明日の朝が早いから眠る。

⑥ もちろん、時計がもたらした恩恵は大きい。遠くの人と約束ができ、待ち合わせがなりたつのも、共通の時間があるからだ。時計の時間を手放すことは、もはやできない。

⑦ ただ、時計の時間だけが本当の時間だと思いこむと、からだが感じとっている時間の厚みは見えなくなる。待つ時間の長さや、夢中になったときの短さは、時計では測れないのである。時計の時間とからだの時間、そのニつのあいだを行き来できることが、いま求められているのではないか。

問　――線部「時計は、時間を、だれのものでもないものにした」とあるが、どういうことか。八十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素（中心・支え・背景）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80

80字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　評論(説明型)「撮ることと見ること」

① 旅先で美しい景色に出会うと、私たちはまずスマートフォンを取り出す。撮っておけば、いつでも見返せる。記録は、忘れないための確かな手段だと信じられている。

② けれども、撮った写真の多くは、二度と見返されることがない。そしてふしぎなことに、撮った景色ほど、その場で何を感じたかを思い出せないことがある。旅から帰ってアルバムを開いても、そこにあるのは、自分が見たはずの景色の、見知らぬ複製のように感じられる。

③ 撮るとき、私たちの目は、景色そのものではなく、画面の中の四角いわくを見ている。画面の中の景色は、目の前の景色よりも小さく、平たく、静かである。どこで切り取れば見ばえがよいか、光の具合はどうか。注意は、あとで見返す写真の出来ばえに向かい、いまここにある景色からははなれていく。

④ さらに、あとで見返せるという安心が、いまよく見ておこうとする構えをゆるめる。記録が残るとわかっていれば、記憶にきざみこむ必要はないからだ。こうして、見るというはたらきは、記録する機械にあずけられる。

⑤ では、見るとはどういうことか。それは、ただ目に光を入れることではない。風の冷たさや、遠くの音や、そのときの自分の気分とともに、景色を身体で受けとめることである。見ることは、目だけのはたらきではなく、からだ全体のはたらきなのだ。そうして受けとめたものだけが、あとになって、ふとよみがえる。

⑥ だとすれば、記録することは、ときに見ることをやめることでもある。撮るなと言いたいのではない。写真が、忘れていた旅を思い出させてくれることもあるだろう。ただ、撮る前に少しのあいだ、何も持たずに景色の前に立ってみてもよいのではないか。それは、見ることを機械にまかせきりにしないための、ささやかな工夫である。

問　――線部「記録することは、ときに見ることをやめることでもある」とあるが、なぜそう言えるのか。「見る」とはどういうことかを明らかにしながら、本文全体をふまえて百二十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素（中心・支え・背景）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

10　20
30　40
50　60
70　80
90　100
110　120

120字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　評論「時計の時間」

解き方

1. **手順1　根拠に線と番号**
   ②段落：同じ長さの目盛りに刻んだ、だれにとっても同じ。④段落：一人ひとりの暮らしやからだから切りはなされ、共通のものさしになった。①段落：それまでは仕事や季節、からだとともに感じとられていた（R06-1）。

2. **手順2　重なりをまとめる**
   ②段落の「だれにとっても同じ一時間」と④段落の「共通のものさし」は同じ内容＝1要素（R06-7）。

3. **手順3　不採用を決める**
   田植え・漁・昼の十二時は具体例。③段落の工場・鉄道は背景。⑤段落の「時計に合わせて動く」は結果で、――線部の言いかえではない（設問とずれる）。「時計は人を不幸にした」は⑥段落（恩恵は大きい）と矛盾（R06-5）。

4. **手順4　見積もり**
   八十字＝3要素前後。中心（だれにとっても同じ目盛り・共通のものさし）＋支え（以前は一人ひとりの仕事・季節・からだと結びついていた）＋支え（暮らしやからだから切りはなされた）（R06-6）。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
中心	だれにとっても同じ長さの目盛りに刻み、共通のものさしにした	②④	◎ 入れる
支え（対比）	それまで時間は、一人ひとりの仕事や季節、からだと結びついて感じとられていた	①	◎ 入れる
支え	時間が一人ひとりの暮らしやからだから切りはなされた	④	○ 入れる
設問とずれる	人は時計の針に合わせて動くようになった（結果）	⑤	△ 入れない
具体例・背景	田植え・漁・昼の十二時／工場・鉄道	①③⑤	× 入れない
矛盾	時計は人を不幸にした	⑥と矛盾	× 入れない

模範解答

模範解答（八十字以内）　77字／80字以内

一人ひとりの仕事や季節、からだと結びついていた時間を、時計はだれにとっても同じ長さの目盛りに刻み、暮らしから切りはなされた共通のものさしにしたということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
中心:だれにとっても同じ長さの目盛り(共通のものさし)にした	4点
支え:それまでは一人ひとりの仕事・季節・からだと結びついていた	3点
支え:暮らしやからだから切りはなされた	2点
文末「〜ということ。」・具体例なし	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「工場や鉄道のために、時計が必要になったということ。」	背景だけ。――線部の言いかえになっていない。0点。
「人は、おなかがすいていなくても十二時に食べるということ。」	結果の具体例。0点。
「時計は時間をうばい、人を不幸にしたということ。」	⑥段落と矛盾。0点。

練習2　評論(説明型)「撮ることと見ること」

解き方

1. **手順1　根拠に線と番号**
   ⑤段落:見る＝景色を身体で受けとめること(設問の条件＝必ず入れる)。③段落:撮るときの注意は写真の出来ばえに向かい、景色からはなれる。④段落:あとで見返せる安心が、見ておこうとする構えをゆるめ、見ることを機械にあずける(R06-1)。
2. **手順2　重なりと支え**
   ③段落の「四角いわくを見ている」と「景色からははなれていく」は同じ内容＝1要素。④段落の「構えをゆるめる」と「機械にあずけられる」は原因と結果＝1要素にまとめて書ける(R06-7)。
3. **手順3　不採用を決める**
   ②段落「写真は見返されない」は現象で、理由の中心ではない(字数があまれば)。⑥段落「撮るなと言いたいのではない」は譲歩＝「撮ってはいけないから」と書くと矛盾。「写真は本物より美しくない」は根拠なし(R06-5)。
4. **手順4　見積もり**
   百二十字＝4〜5要素が目安。ただしここは1つ1つの要素が長く、3要素で百字をこえる。残りの字数では②段落の現象(約25字)は入らないので外す。見る＝身体で受けとめる(前提)→撮ると注意が景色からはなれる→安心が構えをゆるめ、見ることを機械にあずける→「〜から。」(R06-6)。

要素表(材料を集める)

要素	中身	根拠	入れる？
中心(条件)	見る＝景色を、そのときの感覚や気分とともに身体で受けとめること	⑤	◎ 入れる
中心	撮るときの注意は写真の出来ばえに向かい、目の前の景色からはなれる	③	◎ 入れる
中心	あとで見返せる安心が、よく見ておこうとする構えをゆるめ、見ることを機械にあずける	④	◎ 入れる
現象	撮った写真の多くは見返されず、何を感じたかを思い出せない	②	△ 字数があれば
矛盾	撮ってはいけない(⑥は「撮るなと言いたいのではない」)	⑥と矛盾	× 入れない
根拠なし	写真は本物の景色より美しくない	なし	× 入れない

模範解答

模範解答(百二十字以内) 105字／120字以内

見るとは景色を身体で受けとめることなのに、撮るときの注意は写真の出来ばえに向かって目の前の景色からはなれ、あとで見返せるという安心がよく見ておこうとする構えをゆるめて、見ることを記録の機械にあずけてしまうから。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
見るとは:景色を身体で受けとめること(条件)	3点
撮るときの注意は写真の出来ばえに向かい、景色からはなれる	3点
あとで見返せる安心が構えをゆるめ、見ることを機械にあずける	3点
文末「～から。」・譲歩と矛盾しない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「写真を撮ってはいけないから。」	⑥段落の譲歩と矛盾。0点。
「撮った写真は見返されないから。」	現象だけ。なぜ「見ることをやめる」のかが無い。0点。
「見る」の説明が無い答え	条件を満たしていない。3点が入らない。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U06 材料を集める（アドバンス）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます